

# 曾於文藝

## 俳句

### 末吉俳句会

桐原の流ながれよりなる涼りようの帯おび

古藤 まゆ美

抜き捨すてし草くさ生きいきと梅つゆ雨の庭にわ

泊 康

睡蓮すいれんの花はな見み日ひ和わとなりにけり

原口 サエ子

### 大隅俳句会

火山やま灰な掃はらふ水みづに小こさき虹にじわたる

岩重 みどり

杉山の坂道照らす夏の月

穎娃 晴美

縁先に月見草咲く夕餉かな

川崎 綾子

## 短歌

### 大隅短歌会

公園の遊具もひまをもてあます  
少子化すすむ日暮れの村は

川田 サダ子

梅雨晴れの曲りくねった山道を  
森林浴をしながら歩く

入来 レイ子

砂遊びの幼の声を避けながら  
雀はしつこく餌をひろえり

渡辺 哲夫

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳民氏

### 財部短歌会

熱帯夜寝ぞうもみだれ蛙たち  
大声あげてゲロゲロ騒ぎ

井上 澄子

電柱に傾合ひを見てカラス来る  
防鳥糸有りや無しやと

児玉 次雄

手植えせしじやがいも掘り終へ安堵せり  
転がす新じやがまぶしく見つつ

杉村 リカ

アッアアアッアア人声まねる  
カラス一羽伝えたきこと訳あり声で

祝迫 道雄

大輪の亡母ははが好みしてまり花  
今すぐ手折らん梅雨の晴れ間に

永岡 冨子

待ちかねし白雲の嶺碧き空  
高まる希望湧き出ずる想い

山城 忠

わが愛田一人の吾に風送る二人で  
精魂こめ来し苦の後思ひ出す

橋口 貞男

五十余年娘より我にと使い来し  
傷める辞書に感慨ぶかし

瀬戸口 芳子

書庫整理ばらりと落ちた一枚の  
写真に過去の吾振り返る

川俣 若

### 薩摩狂句

#### にがごい会末吉支部

良よか着物しよが 三段腹さんだんばらを  
締め上げつ 田代 勝泉

似合にわんち 鏡かがんが笑わるた  
派手はな着物いしよ 森山 厚香

流行はじやろ 若わけ娘こが好このん  
妙みよな着物いしよ 浜田 一好

若わけ時代との 着物いしよを着きつたや  
引ひつ裂さけつ 古川 一幹

### 大隅薩摩狂句会

眠ねぶもねか 夜通よとおし飲ぬじよい  
一斗甕いっとうがめ 太良木 五徳

目を閉つぶつ お経きよを聴きちよれば  
眠ねぶけなつ 津留 群志

噴ふつどえつ 疲だれたち桜島しよまも  
眠ねぶけなつ 神宮司 素水

暑ぬきとこい 読書よみかきち気取きつ  
眠ねぶけなつ 新屋 涼子



曾於市音頭